



ボランティアの指導を受けながらタオル帽子を作る盛岡二高の生徒たち

岩手ホスピスの会 同高での作製講習会 線縫いで一生懸命タオルという経験があまりな  
(川守田裕司代表) は 5年目。参加したの ルに針を刺して、1人 いので、楽しい」と、  
17日、盛岡市上ノ橋町 は家庭クラブ委員の生 1個ずつ帽子を完成さ 満足げに帽子を見詰め  
の盛岡二高(小原貴人 徒ら29人。用意された せた。  
校長、生徒578人) 裁断済みのタオルを用 最初に作り上げた岩 指導に当たった同会  
で、がん患者のための い、同会のボランティア 淵姫和(きより)さん の吉島美樹子事務局長  
タオル帽子作製講習会 アの手ほどきを受けな (1年)は「得意な裁 (60)は「二高さんは  
を開いた。参加した生 ながら、帽子づくりの挑 縫でがん患者さんの役 コロナ禍でも続けてく  
徒たちは、 りている。

抗がん剤の 使用による 脱毛などに 悩む患者さ んを思い、 心を込めてタオル帽子 を作った。  
同会は2008年か けはお母さん」と言い つてみたい」。去年に オール帽子は、クリスマス  
ら、タオル帽子の配布 切る裁縫初心者や、針 続いて2回目の挑戦だ スに合わせて、岩手医  
活動を開始。これまで に糸を通すことができ った田口輝(きり)さ 大附属病院に届けられ  
約10万5千個の帽子を ず、「できない」とん(2年)は「細かい るという。

高のち 二高た 盛岡生

## 一針一針心を込めて

### がん患者用タオル帽子作る

社会貢献の 一つとし て、この活 動に触れて くれれば」

に立つことができ、う と感謝した。

中には、「ボタン付 れしい。これからも作 生徒たちが作ったタ

院に発送している。 ない手つきながら、直 しい。誰かの役に立つ

(盛岡タイムス)